

平成28年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」第6回「昔の暮らしから学ぶ②」
(テーマ：総集編)

- 実施日時 平成28年8月25日(木) 10時00分～16時15分
□受講者数 17名
□実施場所 深川江戸資料館
□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局(研究所)から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義・講話

(ゲストティーチャー：公益財団法人 江東区文化コミュニティー財団

中川船番所資料館 次長 久染 健夫氏)

- ・江戸の町の成り立ち
- ・江戸の町の作り
- ・庶民が住む長屋の作り
- ・江戸の生活
- ・江戸時代の物を大切にする生活(リユース、リサイクル)



・江戸時代の街並み、生活空間を再現し、その時代の生活を模擬体験できる「深川江戸資料館」の展示施設を活用し、季節に合った生活の形態、暑さ寒さをしのぐ工夫、ものを大事にし、使えなくなるまでとことん使うリサイクルの知恵、ごみとして廃棄するものを極力少なくする生活形態などを学ぶ。

・受講生は、ゲストティーチャーの解説を聞きながら、江戸の暮らし観察シートを記入



【午後】

3. 環境学習プログラム「昔の暮らしから学ぶ！」

(講師:NPO法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 「環境学習の意義について」(各回共通説明事項)

子供の健全な成長には、バランスよく理性と感性の両方を伸ばしていく必要がある。特に現代では、日常生活において実感を伴う様々な「体験」が不足していること、それゆえに学校において「体験」を伴う学習の必要性が増してきている。環境学習は、学校における各教科学習を基礎に、それら教科学習と関連させて実施することが大切である等の説明があった。



○「森は命の源」

生物多様性をはぐくみ、時には海の生き物まで育てる森の仕組みは、私たちの生活の基である食を支える、食べ物を育てるエネルギーの循環の場所である。

この仕組みを知り、森を支える環境について理解することは重要である。

(江戸の暮らし観察シートに基づき、昔と今の違いを考える)



(標語制作体験、短冊に記入して発表)



(発表例)

- ・伝えよう 日本の知恵と おもてなし
- ・風を味方に すずしい 暮らし
- ・江戸の下町 全員家族
- ・捨てる前 ちょっと考えて 何になるのかな など

(2) 環境学習プログラム 総集編

- ・自然体験学習のポイント
- ・食を考える授業のポイント
- ・暮らしとエネルギーを考えるポイント
- ・水の学習ポイント など

(3) まとめ（質疑応答及び発表、受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等を、受講者が一人ずつ発表し、講師がコメントをして、受講者間で情報を共有した。



4. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散